

町長室から

9月に入り猛暑と共に今まで経験したことのない台風が発生し、九州地方を来襲しました。

幸い九州から朝鮮半島に足早にそれて、日本列島を縦断する最悪のルートはそれましたが、九州は死者も出す大災害となりました。

新型コロナウイルス感染症、猛暑対策に続いて台風にも備えが必要です。

安倍首相の退陣で自民党の新総裁選びが風雲急を告げています。

歴代第1位の長期政権が一夜にして崩壊するとは思っても寄りませんでした。それが、それほど身体に変調をきたしていたのでしょか、平成18年に発足した第1次安倍内閣の時も今回と同じ病気により退陣されていますから、2度にわたり安倍首相を病魔が襲ったことになりました。

道半ばにして首相の座を譲らなければならぬ安倍首相の気持ち、を推し量ることはできませんが、3本の矢(①大胆な金融政策②機動的な財政政策③民間投資を喚起する成長戦略)のアベノミクスについては功罪半ばという評論家も

いますが、日銀の金融政策と相和して、リーマンショックで一時的株価が6千円台に下落し、円ドル相場も70円台と円高が進んでいた日本経済を株価3万6千円台、円ドル相場は現況で106円台まで立て直した面では評価されるのではないのでしょうか。

この号が出されるまでには新しい自民党の総裁が決定されて、次期総理大臣が選出されていると思いますが、新たな日本のリーダーになる人にはまだまだ増加し続けて先が見えない、新型コロナウイルス感染症の保護とワクチン開発や治療対策、大きく落ち込んだ経済再生などの内政の課題解決、更にアメリカ大統領選挙も11月に迫っており、米中対立化にある世界での日本の立ち位置を考える外交政策も喫緊の重要政策であり、課題が目白押しです。

野党も再編されましたし、今後の政局動向からは目が離せません。

「浦幌町第4期まちづくり計画」の基本構想及び基本計画を議会に提案させていただきました。

町の将来像は『想いをつないで未来を創る。わたしたちのまち、うらほろ』です。

近年は少子高齢化の波や世界的な環境破壊による大規模な自然災害、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックとそれに伴う経済の停滞など複雑多岐にわたる課題に直面しています。

防災への意識と備えは町民の皆さんと心を一つにして醸成していくとともに、基幹産業の一次産業をはじめとするすべての産業と文化が力強く発展し、福祉と子育て環境を充実するために、町民一丸となって本計画を進めてまいります。

また、日本全体が人口減少社会にあるなかで、減少社会を想定して新たな産業振興モデルを創出する必要があります。

最近では都会の若手企業人たちが町内でワークキャンプを行い、自分たちの学びと自己成長、社会貢献によるマインドアップを目指して、町内の若者には起業創業による働く場所の確保、産業団体にはあつては当たり前とされた一次産

業の生産物に無限の価値を持った資源だと認識することにより高付加価値化をもたらすなど、多彩な人材と連携した新たなダイナミックな活動の芽吹きが感じられます。

その動きを加速させていくなから、より一層、町民の皆さんと共に「住みたい町」「住み続けたい町」「住んでよかった町」を目指してまいります。

本計画は令和3年から令和12年までの10年間で浦幌町の最上位計画であり、「ワークシヨップ」や「町民アンケート」を行いながら幅広い町民の皆さんで組織された「総合振興計画審議会」や役場内の「総合計画策定委員会」での審議を経てパブリックコメントもを行い、最終的に「総合振興計画審議会」に案を諮問して、答申をいただいたうえで議会へ提案させていただきました。

今後は議会でのご審議をいただくこととなります。

浦幌町長 水澤一廣

COLUMN

連載 114

仕事について考える

札幌大谷大学社会学部 教授 平岡祥孝

豊かな実りの秋を迎えた十勝地域で、読書と散歩そして食を満喫できる良質な時間消費を心ゆくまで楽しみたい。それは私の退職後のささやかな夢の一つでもあります。

それはさておき、最近では「ワーケーション」なる働き方も耳目を集めるようになってきました。ワーケーションとは、休暇を楽しみながらテレワークをするという、英語の「ワーク」(work)と「バケーション」(vacation)を合わせた造語です。新型コロナウイルスの感染拡大に対応した「新しい生活様式」に位置づけられたようです。働き方改革の推進を背景として、低迷している観光業を何とか回復させんとする苦肉の策の一つでしょうね。

観光需要が落ち込んでいる宿泊業者とりわけホテル業界にとっては、新規需要開拓の一助にもなるでしょう。観光資源や地域特性を踏まえたワーケーション特化型の多様な商品が販売されています。たとえば、札幌市内のシティホテル、道東や道北のリゾートホテルが提供しているプランが紹介されていました。(『北海

道新聞』2020年8月25日付記事)。

また、環境省も観光事業者の雇用維持を支援するために、「ワーケーションツアー」などの実施のための企画・実施費用の支援、「キャンプ場や旅館などでのワーケーションのためのWi-Fiなどの環境整備支援」などの名目で、補助金を支給するそうです。

あくまでも私見ながら、日本企業に勤める一般的なビジネスパーソン要するに普通のサラリーマンが、果たして積極的にワーケーションを取り入れていくことが出来るのでしょうか。甚だ疑問です。「オン」と「オフ」の視点に立つならば、仕事を忘れて英気を養うために余暇や休暇を楽しむと思えます。言い換えれば、バケーションに出かける目的は、リラックスして心身ともにリフレッシュすることでしょう。人によっては携帯電話やスマートフォンの電源を切って、旅行や野外活動の非日常性を体験したり、趣味の世界に没頭したりして、仕事中心の日常生活から完全に離れます。この切り替えこそが大切では。

むしろ企業や団体には、各人の主体性に基づいて必要なときに長期休暇を取得できる制度設計が求められるのではないのでしょうか。もちろん中小企業では人員の面からも、大企業のように「休み方改革」は進展し

ないでしょう。けれども、たとえば、フンデイ・ホリデイ(1日休暇)を取得する自由度を高めて土曜日・日曜日と組み合わせれば、各自に見合った3連休あるいは4連休を容易に作り出せます。それは複数回取得可能ではないでしょうか。個々の事情を踏まえつつ、身の丈にあった休暇取得促進を工夫することも経営です。

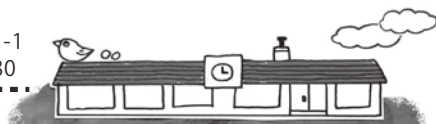
そもそも仕事と余暇はトレード・オフの関係です。若者のワーキングホリデイとは次元が異なるワーケーションですよ。ワーカホリック(仕事中毒症)な人間あるいは超多忙な仕事人ならいざ知らず、ワークとバケーションを組み合わせるといった発想には、私は違和感を覚えます。テレワークで労働生産性を向上させる前提条件は、「ジョブ型雇用」主体の組織への改編です。「メンバーシップ型雇用」中心の道内の企業・団体では、果たしてどれだけ「ジョブ型雇用」が拡大しますか。最後に一言、デジタル化が進めば進むほど、非デジタル(実際の人の接触)の価値は確実に高まります。



【ひらおか・よしゆき】札幌大谷大学社会学部教授。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。高校生・大学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍。

Tokomuro lab 通信 vol.7

浦幌町字常室 51-1
Tel: 015-578-7580



『常室ラボのホームページがリニューアル』

こんにちは、常室ラボ長の三村直輝です。
常室カフェをしたり、「新しいしごとの創造拠点」である常室ラボ(以下ラボ)を運営したりしています。ラボを身近に感じてもらいたいと思い、常室ラボ通信を始めました。さて、今回は常室ラボのホームページリニューアルのお知らせ。QRコードを載せておきますので、ぜひご覧になってみてください。
可愛い仕掛けもあります。URLは「<https://tokomuro-lab.com>」。
2016年6月から利用を始めた常室ラボも5年目に入突。
ホームページ作成にあたり、写真を整理する中でいろいろな方に関わっていただき、助けていただきながらここまで来たんだなー、としみじみしてしまいました。ラボでできることや、過去のラボでのイベントなどもご覧いただけます◎それでは、また。



【開校時間Opening Hours】

- 定休日 火曜・水曜
- ラボ 10:00-17:00
キッズスペース(無料)やフリースペース、コワーキングスペースをご利用いただけます。校内の見学やイベント開催のご相談 etc... 承ります! ぜひ遊びに来てください。(A0A)
- カフェ 土曜、日曜
11:30-15:00・ランチタイム
15:00-17:00・カフェタイム
校庭を眺めながら、うらほろ食材の美味しいお料理とスイーツでフレッシュ。珈琲一杯からお気軽にどうぞ!